

家庭科における問題解決的学習を支援する教材冊子の効用

—衣生活に関する副読本の提案—

Utility of educational booklets to support problem-solving learning in home economics

—Suggestions for a Side-Reading Book on Clothing Life—

夫馬佳代子¹

FUMA Kayoko¹

[キーワード Keyword] 家庭科, 小中学校, 衣生活, 教材, 授業実践

[所属 Institution] ¹岐阜大学大学院 (Graduate School of Education, Gifu University)

[要 旨]

本研究では、これまで家庭科学習において、中学生が身近な生活環境では実感を伴い学ぶことが難しいと考えられる高齢者の衣生活やユニバーサルファッションについて、実生活と関連を図った問題解決的な学習に効果的に取り組める教材開発に取り組み、教材用冊子を作成してきたが、改めて本研究室でこれまで作成した教材冊子の教育的な意義について再考を試みたい。作成した衣生活に関する教材用冊子の教育面での可能性についての一考察を試みたので報告する。

なお、家庭科では、現在の生活状況を把握し、その生活実態の詳細を観察し、生活における問題を解決する問題解決学習に取り組む実践が多く試みられ、実習指導においても教育的な効果が得られることが期待される。本研究では、被服教育の製作実習において副読本を活用する可能性についても若干の考察を加える。

1. 研究の背景と目的

家庭科では、現在の生活状況を把握し、その生活実態の詳細を観察し、生活における問題を解決する問題解決学習に取り組む実践が多く試みられている。例えば日高 (2018) ¹⁾ は実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れる授業実践について試み、小林・鶴木・林・山田 (2012) ²⁾ は、児童・生徒の問題解決的な学びを家庭科の副読本を通して実践する可能性を示唆している。

本研究室では、これまで家庭科学習において、中学生が身近な生活環境では実感を伴い学ぶことが難しいと考えられる高齢者の衣生活やユニバーサルファッションについて、実生活と関連を図った問題解決的な学習に効果的に取り組める教材開発を行い、教材用冊子を作成してきたが、改めて今まで作成した教材冊子の教育的な意義について再考を試みたい。^{3)~5)}

作成した衣生活に関する教材用冊子の教育面での可能性についての一考察を試みたので報告する。

なお、本教材冊子に掲載した衣服を考案する過程と製法については、別稿⁶⁾で報告したので、ここでは省く。冊子の内容構成については、一部引用して社会の実生活と連携した教材冊子の意義と可能性について、また本冊子をもとに被服教育の製作実習において副読本を活用する可能性についても若干の考察を加える。

2. 研究方法

本研究では教材用冊子を考案する背景として、社会の実生活と連携し、高齢者に衣生活に関する実態調査等の一連の活動をもとに、冊子の構成と掲載する改良服の考案に取り組んだ。

冊子作成の準備段階とし、高齢者の生活実態をもとにした改良服を考案・製作⁷⁾、改良服を標本とし高齢者の着脱疑似体験を取り入れた授業実践⁸⁾に取り組み、実感を持って高齢者衣服について考える体験的な授業を提案するなどの活動を行った。こうした授業において、疑似体験をもとに衣服を考案する場面で、衣服の考案に関する交流の参考とするための教材として副読本を作成した。

本冊子を副読本として活用した授業実践は、中学生を対象に2019年2回実施した。⁹⁾

3. 結果及び考察

(1) 家庭科における教材用としての副読本

本研究では、高齢者の衣生活の実態と関連を図り、衣服の着脱に関する問題の解決に取り組む教材用冊子の開発に取り組んだが、家庭科における教材用の副読本 (教材) の効用について、事例をあげて見ておきたい。

川野・新井・佐野・八島・仲久 (2018) は「授業と教材」において、教材の果たす役割、教科等横断的な

視点に立った資質・能力の育成を図る教材の効用を示している。¹⁰⁾ 家庭科においても、教科書以外の教材として、近年はデジタル教材などさまざまな教材が見られるが、児童・生徒各自が主体的に現在の生活実態や生活情報を幅広い視点で捉えるツールとしての副読本も活用される。

食育では、池上監修「小学校家庭科・総合・食育指導副読本 大麦のこともっと知ろう 大麦のはなし」¹¹⁾ 住生活でも小澤監修「中学校技術科・家庭科副読本 考えよう わたしたちの快適な住まい」¹²⁾、消費者教育では、板橋区小学校家庭科研究部・板橋区消費者センター編 (2016) 「わたしたちの生活・消費者教育用副読本」¹³⁾、豊中市立小中学校教育研究会中学校技術家庭科研究会編集委員会 編集 (2019) 「新・くらしのノートー消費生活編ー中学校技術・家庭科用」¹⁴⁾、経済産業省監修 (2015) 「製品安全ワークブック 家庭生活を安全に過ごすために」¹⁵⁾等の事例のように、小中学校や自治体、また政府等、さまざまな立場から授業内容に関する生活実態や知識等の現状の情報を伝えているのが副読本の特色といえよう。

副読本を通して、児童・生徒の問題解決的な学びの可能性も示される。小林・鶴木・林・山田 (2012) は、「副読本「かわさき」の作成と活用に関する研究-問題解決的な学習の中で活用しやすい副読本をめざして-」の中で「問題解決的ページ」試案が示されている。¹⁶⁾ 問題解決的なページの全体構成は、「問題を見つけるページ①」「問題を見つけるページ②」と「調べたり考えたりするページ①」「問題を見つけるページ②」「調べたり考えたりするページ②」「学習したことをまとめるページ」とし、学習してきたことが自分の言葉で再構成できるページ構成が示される。こうした副読本に加え見学や体験活動等を取り入れることで、より実感的に学習することができるとしている。

このように、副読本を通して問題解決学習に取り組む構成が、本研究の目的とする副読本の構成でもある。

(2) 教材用冊子 (副読本) 「ユニバーサルファッションについて考えよう」の構想¹⁷⁾

1) 全体構想

図1は、教材用冊子「ユニバーサルファッションについて考えよう」の研究全体における位置づけを示す構想図である。¹⁸⁾

本冊子は、中学生を対象に高齢者の衣生活の実態調査にもとづき、だれもが着易い衣服の考案・製作を提案し、家庭科授業に活用することを目的とした副読本である。

こうした冊子を製作する背景としては、前述のように家庭科の衣生活においてユニバーサルファッションについて取り組む場合、実際に高齢者が抱える衣生活の問題、特に衣服の着脱の困難さについて実感を持って捉えることは、身近な生活経験の中では難しい点にある。そこで、社会と連携し、高齢者の衣生活実態調査と衣服を改良する過程について、写真や図を用い視覚的に伝え、実感を伴って捉えることができるよう留意した。

上記で述べた「社会と連携し高齢者の衣生活実態調査と衣服を改良する過程」とは、具体的には医療関係の支援で在宅介護の当事者及び家族の衣生活の改良について4年間取り組み、①在宅介護の高齢者の衣生活調査、②高齢者と介護者と共に衣服の考案、③当事者の願いにもとづく考案服の試作、④試作した考案服を着装して検証、⑤試作服の改良、⑥改良服の検証・完成等の一連の活動に取り組んだ。また、デイサービスに通う80~90歳代の健康な高齢者6名と2年間の活動として手芸クラブを作り、隔週で作品製作と着易い衣服の考案について意見交流を行ない、高齢者当事者が理想とする考案服を提案する活動に取り組んだ。¹⁹⁾

こうした社会と連携した高齢者自身の衣服への願いを冊子にも反映した。

2) 作成手順

冊子の作成手順については、図1の「教材冊子の作成」に示すように、①高齢者衣生活実態にもとづいた衣服の改良案、②生徒・学生の改良案をもとに改良服製作計画、③改良服の製作方法は小中学校で習得する技術を活用、④製作過程を写真で記録、⑤改良案と製法を示した冊子の完成となる。

3) 活用 (授業教材としての活用)

図1の構想図で示すように、教材用冊子として授業におけるアクティブラーニングに活用する。

授業実践の内容は、導入段階で高齢者の衣生活の実態や在宅介護などの衣服の悩みや願いを捉え、展開段階で体験的に①高齢者の衣服着脱の擬似体験、②高齢者の衣服着脱を楽にするにはどうしたら良いか意見交流、③具体的な改良案について考えるなどの活動に取り組んだ場合、具体的な改良案について考える場面では、事例や考え方を示す本冊子を教材用の副読本として活用する。

こうして考案した改良服案について、まとめの段階で、改良案の発表や考案した改良服の意見交流と検証を行なう。

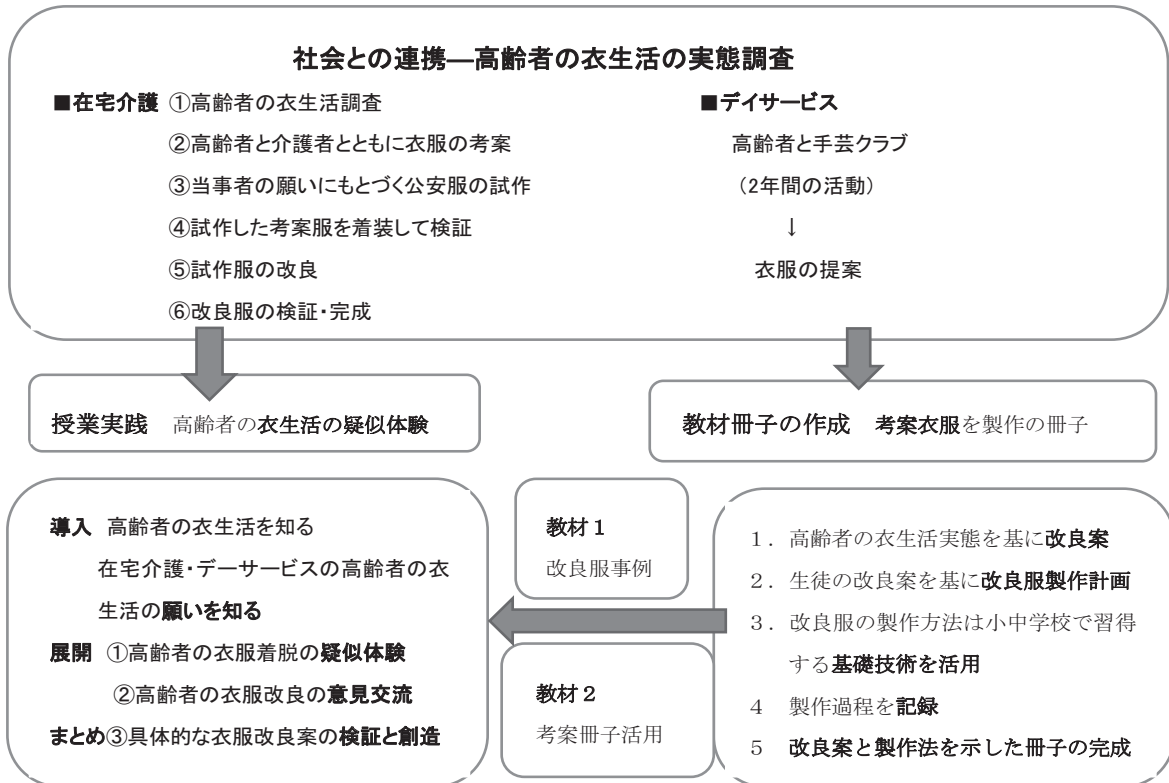


図1. 構想図 高齢者の衣生活実態をもとにした教材用冊子の位置づけと活用

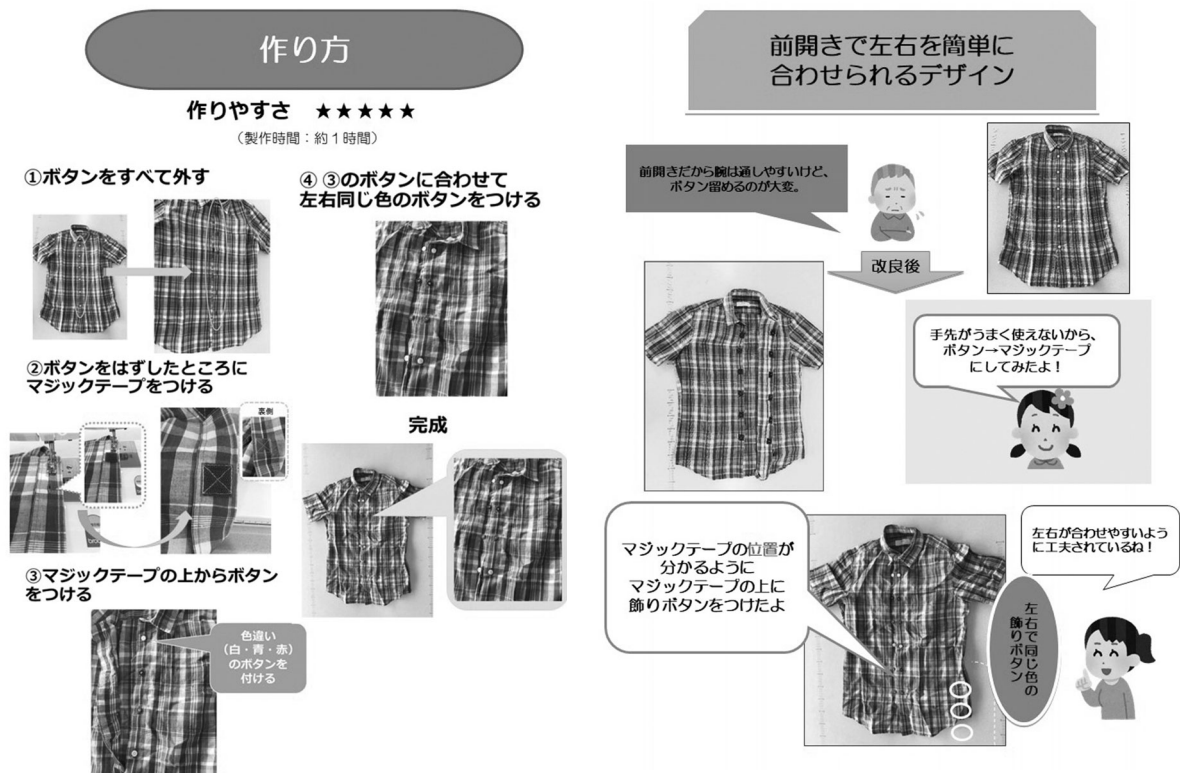


図2. 教材冊子『ユニバーサルファッション』【中学生用】(既製服改良事例) 以下P7~P30 掲載頁参照

(出典：村井・横山・夫馬 (2019) 「ユニバーサルファッションの教材開発としての補助教材冊子」 岐阜大学教育学部研究報告 自然科学, 43, 107 - 116. 参照。 改良服 冊子制作 村井)

(3) 内容構成

ここで、改めて本冊子の内容構成の特色について述べる。

図2は本冊子の内容構成を示したものである²⁰⁾。

冊子の構成は、①ユニバーサルファッションとは、②衣服を改良する事例（既製服の上衣と下衣を着脱し易いように改良）、③改良した衣服の着脱動作の検証（資料—留め具の種類）の3部構成である。

①ユニバーサルファッションとは、においては、ユニバーサルファッションとして販売される衣服を事例にあげ、パジャマにおいて工夫してある部分を探し、工夫点を枠内に記入することで、ユニバーサルファッションとは何かを考える仕組みとなっている。さらに高齢者の願いとして「むかし買った服が着にくくなったな」「お店で購入した服を着やすく改良できないかな」などの声に対し、「今までの家庭科の技術を使って、着やすくすることができるよ」として、小中学校で習得した基礎技術を活用して衣服の改良も可能なことを示唆する。「実際にどんなものが作れるか見てみよう」とし、製作事例をあげる。²¹⁾

②衣服を改良する事例は、見開きで「デザインの工夫」と「製作手順」を示す構成となっている。

上衣の事例では、「前開きで左右を簡単に合わせられるデザイン」として改良前と改良後の工夫、例えばボタンをマジックテープに変更し、マジックテープの位置が分かるように飾りボタンを付ける等、小学校で習得する技術で改良できる案を提示する。「左右が合わせやすいように工夫されているね」等、工夫点について生徒が気付く問いかけが設定されている。見開きの隣の頁で、作り方手順が写真で具体的に示される。

同様に「簡単に頭を通して着られるデザイン」、「後ろから頭を通して簡単に着られるデザイン」、「ファスナーで簡単に着られるデザイン」、「腕が通しやすく簡単に着られるデザイン」などについても、見開き頁に、改良案と「作り方」が写真で具体的に示される。「自分でできそうなアレンジも考えてみると楽しいよ」として、生活の中での実践を促している。

下衣の事例では、「ファスナーで簡単にはけるズボン」、「マジックテープで簡単にはけるズボン」、「肩ひもをつけたサスペンダー型ズボン」、「上からはけるズボン」、「足が通しやすく、和服らしさを取り入れたズボン」、等の改良案とそれぞれの製作手順が写真、イラスト、解説等で示される。²²⁾

③改良した衣服の着脱動作の検証では、「着脱動作を見てみよう」とし、中学生でも簡単に調べられる方

法を提案し、高齢者が実際に着用する手順の動画映像の肩・肱・手首・指先の動線を比較した事例を示す。

冊子の最後に「実際に考えよう」として、記載される高齢者の願いをもとに、衣服考案の取り組みを促す構成になっており、冊子を用いて自主的に学ぶことも可能である。²³⁾

(4) 副読本としての活用

1) 家庭科におけるアクティブラーニング

図1に示す構想図の説明で、本教材用冊子を授業のアクティブラーニングに活用すると述べたが、ここで改めて、家庭科におけるアクティブラーニングにおいて、社会と連携し生活実態を反映し体験的な活動を実践を通して、学習者主体の家庭科学習に取り組む既存の試みについて触れておきたい。

衣生活に関しては、西岡・今村・赤松(2016)は、「アクティブラーニング」を活用した衣生活学習の提案実践と評価」において、「アイロンかけ」実習授業を、アクティブラーニング型授業として展開し、体験や視聴覚教材を活用しながら、かけ方の意味を深く考えさせる授業実践が報告される。その成果とし、授業後今後もアイロンかけをしようとする意欲を持つことができたのは、「学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力」の育成につながると考えられている。²⁴⁾

食生活における食材選びの視点を育てる実践として、植田・多々納・竹吉(2015)は、「小学校家庭科におけるアクティブラーニングを活用した食材を選ぶ力の育成—みそ汁づくりを題材にして—」において、アクティブラーニングを活用し食材を選ぶ力の育成を目的とし、学び合いにより食材選びの視点を分析し、事後アンケートより「生産地」「値段」に加え「安全」「量」「おいしい」など多様な視点の広がり発展して事を示している。²⁵⁾

中学校技術・家庭における幼児とのふれあいに関しても、藤井・中山・伊藤・高橋(2017)は、「中学校家庭科における「幼児とのふれあい体験学習」：アクティブラーニングによる授業モデルの開発と実践」において、幼児の保護者と生徒が直接的・間接的にかかわることにより、幼児の理解を深める効果を示し、幼児とのふれあい体験の事後学習に「幼児とのふれあいQ&A集」を作成する成果を示している。²⁶⁾

大学生の授業に活用したアクティブラーニングの実践としては、竹嶋(2017)「家庭科指導法Iにおけるアクティブラーニングの実践報告」において、新聞記事等を用いる授業実践を通し、主体的な生活を営むた

めには、現在の情報を正しく把握し、生かすことの重要性を指摘している。²⁷⁾

大学生を対象とした家庭経営に関しても佐々木・小松・小栗・瀬尾・菊池(2016)は、「家庭科教育におけるアクティブラーニングの学びの過程－KHCoderによる授業分析－」において、アクティブラーニングの学びの過程を検証するために授業実践をKHCoderによる質的データ分析を用い、「家庭経営学」授業では体験的な活動を取り入れ、生活を振り返り改善することをねらいとし、ルワンダの生活と自分の生活との関わりについて考えさせる実践を行っている。²⁸⁾

また「初等家庭科教育」では、他者との協働学習や課題解決学習を取り入れ、当事者意識を持ち深い学びにつながるような授業を試み、アクティブラーニングによる協働学習や課題解決学習の可能性を示している。同様に教員養成系学生を対象とした事例とし、伊深(2017)は、「家庭科教員養成におけるアクティブラーニング」において、家庭科の授業で印象に残っている授業について、教師は何をしていたか、①授業の進行、②授業の構想、③授業方法、④交流、⑤共感、⑥感情等6つの視点で分類し、学生が主体的に授業分析に取り組む報告が試みられる。²⁹⁾

アクティブラーニングを用いた実生活と関連を図った問題解決的な学習の事例とし、最初に取り上げた日高(2018)は、「主体的・対話的で深い学びを促す家庭科における見方・考え方を働かせた家庭科学習指導」において、身に付けた知識や技能を活用して生活をよりよくしようとする工夫し、進んで実践しようとする思いや願いが持続することが重要であるとし、より実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れ、家庭生活でいかしたいという思いや願い持続する学習内容が大切であるとしている。³⁰⁾

これらの研究実績より、家庭科におけるアクティブラーニングの学び効用は、生活実態をもとにした問題解決能力の育成につながっていることが明らかにされている。

2) 本冊子をアクティブラーニングに活用

上記の家庭科におけるアクティブラーニングの実践事例を参考に、これまで制作した冊子のアクティブラーニングにおける活用の可能性について考えてみたい。

表1は、ユニバーサルデザインの教材冊子を意見交流に活用した授業実践を示す。2017年³¹⁾・2018年³²⁾・2019年³³⁾の授業構成は、図3で示すように基本的に同様の構成である。用いた教材冊子の内容は異なり、本冊子は2019年の授業実践に用いた。

冊子の活用場面も各年同様であり、疑似体験をもとに各自で衣服の考案に取り組む学習場面で活用する。さらに考案した衣服の工夫点についてグループ・全体発表。形態や材質からも検討する場面で活用した。

衣服の問題解決にアクティブラーニングとして本冊子を活用する場合、以下に示すような活用が考えられる。

- ①衣生活の実態を見つめる
- ②衣生活の問題点を改良・考案
- ③小中学校の基礎技術を確認し応用
- ④新たな衣服を考案－衣生活の創造
- ⑤多様な事例による意見交流
- ⑥改良服についての検証

本冊子を上記の各視点で活用した学習活動について表1に示す。教育的効果については継続して検討する。

(5) 教材冊子の作成と活用の相互交流

冊子を中学校の授業のアクティブラーニングに活用した場合、期待できる授業効果について提案を行ったが、本教材冊子を学生が中学生を対象に作成することにより、相互交流からの学びも見られる。

図3は、生活実態をもとにした教材冊子の作成と活用の相互交流からの学びを示す。図3において、大学生が冊子を「作成」する活動と中学生が冊子を「活用」する活動を対比して示してある。

例えば、冊子のユニバーサルデザインの解説では、大学生の活動は「ユニバーサルファッションについて中学生に具体的に分かり易く説明する方法を考案」した成果が、中学生の「ユニバーサルファッションの衣服の事例写真から工夫点を見つけて学ぶ」学びにつながる。

同様に、大学生が冊子を作成する段階で「高齢者の衣生活の実態調査や聴き取り調査をもとに中学生に高齢者の実感を伝える工夫を考案」が、中学生の「高齢者の衣生活の願いから、当事者の立場に立って、衣服の機能生について考える」学びにつながる。大学生が「既製服の改良方法について、高齢者の意見や学生・生徒の意見を参考に考案」した内容が、中学生の「既製服を改良した考案服の事例(上衣6点、下衣5点)から、衣服を改良する発想を学ぶ」活動を支援する。大学生の「小中学校で習得した基礎技術を活用した製作方法を考案し実践」、「製作手順について、写真を用いて分かり易く説明する方法」を実践することからの学びは、中学生の「改良服の製作手順を通して基礎技術の活用方法を学ぶ」学習の支援となる。

表1. 教材冊子を活用した授業実践事例 (2017・2018・2019) ³⁴⁾

授業実践	実践回数	授業対象	導入	展開Ⅰ 疑似体験	展開Ⅱ 衣服の考案に活用	展開Ⅲ 考案服の発表・交流	教材 副読本 冊子の作成	冊子の特色
2017年 ※1	5回	中学生	高齢者の衣生活の実態と課題について知る。標本-高齢者の衣生活実態を改良した考案服の事例を観察。衣服の工夫点を探す。	1. 体が不自由な人の衣生活の疑似体験 2. 体験を基にだれもが着易い衣服の考案	ユニバーサルデザインの教材冊子を参考に意見交流	3. 疑似体験をもとに、各自で衣服の考案。考案した衣服工夫点についてグループ・全体発表。形態や材質からも検討。	教材冊子「ユニバーサルデザイン」生徒の日常生活の中のデザイン探しの本	日常生活の身の周りのユニバーサルデザインについて、見たことがあるか、知っているかをチェックしながら見る冊子。衣生活は着脱の留め具を扱う。
2018年 ※2	0回	中学生	高齢者の衣生活の実態と課題について知る。標本-高齢者の衣生活実態を改良した考案服の事例を観察。衣服の工夫点を探す。	1. 体が不自由な人の衣生活の疑似体験 2. 体験を基にだれもが着易い衣服の考案	ユニバーサルデザインの教材冊子を参考に意見交流	3. 疑似体験をもとに、各自で衣服の考案。考案した衣服工夫点についてグループ・全体発表。形態や材質からも検討。	教材冊子に活用する着脱動作の検証	「ユニバーサルファッションについて知ろう」の【考案した衣服を検証してみよう】コーナーで、簡単な方法で考案した衣服を検証する方法を紹介する。
2019年 ※3	5回	中学生	高齢者の衣生活の実態と課題について知る。標本-高齢者の衣生活実態を改良した考案服の事例を観察。衣服の工夫点を探す。	1. 体が不自由な人の衣生活の疑似体験 2. 体験を基にだれもが着易い衣服の考案	ユニバーサルデザインの教材冊子を参考に意見交流	3. 疑似体験をもとに、各自で衣服の考案。考案した衣服工夫点についてグループ・全体発表。形態や材質からも検討。	教材冊子「ユニバーサルファッションについて知ろう」	生徒や学生の衣服改良案を基に実作を試み、その製作過程を紹介した冊子。上衣6種、下衣6種類の改良服を掲載し生徒が考案する資料とし活用できるよう写真で示す

※1：五藤・横山・夫馬 (2017)「家庭科におけるユニバーサルデザインの教材開発-副読本の作成と授業実践における活用」に授業記録を収録。

※2：奥村・夫馬 (2018)「高齢者の介護を支援する衣服教材の開発」に実践記録を収録。

※3：村井・横山・夫馬 (2019)「ユニバーサルファッションの教材開発としての補助教材冊子」に授業記録を収録

生活実態をもとにした教材冊子の作成と活用の相互交流からの学び

中学生 冊子を活用して学ぶ

- ・ユニバーサルファッションの事例から工夫点を見つけて学ぶ
- ・高齢者の衣生活の願いから**当事者**の立場に立ち**衣服の機能**について考察
- ・既製服から改良した考案服の事例から、衣服を改良する**発想**を学ぶ
- ・改良服の製作手順を通して、**基礎技術の活用方法**を学ぶ
- ・改良した考案服が高齢者にとって本当に**快適**であるかの**検証**の必要性和方法について学ぶ
- ・検証をもとに新たな**衣生活の創造**

大学生 衣服改良の冊子を作成

- ・ユニバーサルファッションについて中学生に分かり易く説明する方法を考案
- ・高齢者の衣生活の実態調査を基に中学生に**高齢者の実感**を伝える工夫を考案
- ・既製服の改良方法について、**高齢者の意見**や**生徒の意見**を参考にして考案
- ・小中学校で習得した**基礎技術**を活用した製作方法を考案し、実践する
- ・製作手順について、写真を用いて分かり易く説明する方法を考える
- ・高齢者が改良服を着用し**快適性**について**検証**する必要性を実証する

図3. 中学生と大学生の交互交流 ³⁵⁾

また、大学生が「高齢者が改良服を着装して、検証する必要性を伝える」留意点は、中学生の「改良した衣服が高齢者にとって本当に快適であるかの検証の必要性和方法を学ぶ」ことの支援とつながる。

このように、冊子の作成意図が生徒の学習にどのように発展し成果を得たかについて検討することにより、教師としての指導法を実践的に学ぶ機会となる。こうした相互交流の成果については、今後、学習プリントの分析を通して明らかにしていきたい。

(6) 被服教育における副読本の活用の提案

本研究室で作成した高齢者の生活実態を反映した冊子を副読本として活用した場合の予想される成果について述べたが、被服教育における製作実習の場面でも活用が可能ではないかと考える。学校教育の限られた時間内では、製作に取り組める作品にも限りがあると予想される。小学校段階の製作実習では、作品作りを通して構成の基本と基礎的な技術の習得が必要であるが、中学校段階になると、習得した基礎技術を活用して衣生活を創造する活動に取り組めると考える。本研究室で作成した冊子で提案したように、高齢者衣服を考案する学習活動や、不要衣料を活用し、習得した基礎技術を活かした作品製作に取り組むことも可能であると考える。こうした活動を支援する教材冊子として、さまざまな視点からの作品事例とその作り方（製作手順）を分かり易く写真で示す副読本は、主体的に製作実習に取り組む可能性と衣生活を創造しようとする意欲に繋がるのではないかと期待する。今後、副読本を用いた授業分析や生徒の読後の感想から製作実習授業における副読本効用についても明らかにしていきたい。

4. まとめ

本報では、本研究室で家庭科の副読本として作成した冊子の特色について3つの側面から捉えた。1つ目は高齢者の衣生活の実態や願いを伝える役割、2つ目は既製服をもとにした改良案と基礎技術の活用方法を伝える役割、さらに授業において衣服を考案するアクティブラーニングの活動における参考資料を提示する役割、さらに教員養成系の学生が副読本の作成に取り組む意義についても若干の考察を試みた。

今後は、実生活と連携した本教材冊子の活用の効用について、授業実践における生徒のワークシートの分析をもとに、冊子が与えた影響について明らかにする。さらに生徒の要望を分析し、教材冊子の内容の修正点についても検討していきたい。

なお、冊子を活用した授業実践研究にご協力いただきました岐阜市内の小中学校の皆様には誠に深謝いたします。

【注釈】

- 1) 日高佳奈. (2018). 主体的・対話的で深い学びを促す家庭科における見方・考え方を働かせた家庭科学学習指導. 鹿児島大学教育学部教育実践紀要, 27, 411 - 418.
- 2) 小林正史・鶴木朋和・林武夫・山田邦昭. (2012). 副読本「かわさき」の作成と活用に関する研究. 一 問題解決的な学習の中で活用しやすい副読本をめざして一. (pp, 1 - 44).
- 3) 村井・横山・夫馬 (2019) 「ユニバーサルファッションの教材開発としての補助教材冊子」岐阜大学教育学部研究報告 自然科学, 43, 107 - 116.
- 4) 土屋明代・夫馬佳代子. (2014). 中学校家庭科におけるユニバーサルデザイン教育の提案—生活実態をもとにした教材開発と実践授業報告—. 岐阜大学教育学部教師教育研究, 10, 199 - 210.
- 5) 山浦はるか・横山真智子・夫馬佳代子. (2016). 中学校の家庭科におけるユニバーサルデザイン教育. 岐阜大学教育学部研究報告, 教育実践研究, 18, 199 - 210.
- 6) 河田祐里・夫馬佳代子. (2016). 高齢者用衣服の考案—寝たきり状態の方が着用する快適な衣服開発の事例—. 岐阜大学教育学部研究紀要(自然科学) 40, 165 - 173.
- 7) 注3) 参照.
- 8) 高齢者の衣服着脱の疑似体験は両手に軍手を羽目ボタンをはめる体験、肘の曲がりにくい状態はサポーター等を用いて肩や肘が動かしにくい状態を体験した。
- 9) 授業実践は各務原市内中学校の協力。注3) 参照。
- 10) 川野渡敏・新井郁男・佐野金吾・八島行久・仲久徳. (2018). 授業と教材. 一般社団法人日本図書教材協会, (pp, 1 - 35).
- 11) 池上幸江監修. 小学校家庭科・総合・食育指導副読本—大麦のこともっと知ろう—大麦のはなし. (pp, 1 - 16).
- 12) 小澤紀美子監修. 中学校技術科・家庭科副読本 考えよう わたしたちの快適な住まい. 全教図, (pp, 1 - 28).
- 13) 板橋区小学校家庭科研究部・板橋区消費者センター編. (2016). わたしたちの生活・消費者教育用副読本 (小学校5・6年生用). 板橋区消費者センター, (pp, 1 - 24).
- 14) 豊中市立小中学校教育研究会中学校技術家庭科研究会編集委員会 編集. 新・くらしのノート—消費

- 生活編—中学校技術・家庭科用. (2019). 豊中市, (pp, 1 - 27) .
- 15) 経済産業省監修. (2015). 製品安全ワークブック 家庭生活を安全に過ごすために. 経済産業省, (pp, 1 - 12) .
- 16) 小林正史・鶴木朋和・林武夫・山田邦昭. (2012). 副読本「かわさき」の作成と活用に関する研究. 一問題解決的な学習の中で活用しやすい副読本をめざして-. (pp, 1 - 44) .
- 17) 副読本の具体的な内容は、村井・横山・夫馬(2019)「ユニバーサルファッションの教材開発としての補助教材冊子」岐阜大学教育学部研究報告 自然科学, 43, 107 - 116. 掲載.
- 18) 構想図は「社会との連携—高齢者の衣生活の実態調査」をもとにこれまでの「授業実践」と作成した「教材冊子」の活用など相互の関連を示したものである.
- 19) 名古屋市内のデーサービスセンターにおいて2年間毎月2回、高齢者7名のグループでモノづくりを通して衣服の改良に関する意見交流を実施した。注5) 参照.
- 20) 注3) 参照。冊子5頁
- 21) 注3) 参照。冊子10頁
- 22) 注3) 参照。冊子15頁
- 23) 注3) 参照。冊子21頁
- 24) 西岡真弓・今村律子・赤松純子. (2016). 「アクティブラーニング」を活用した衣生活学習の提案実践と評価. 和歌山大学教職大学紀要 学校教育実践研究, 1, 63 - 70.
- 25) 植田遥菜・多々納道子・竹吉 (2015). 小学校家庭科におけるアクティブラーニングを活用した食材を選ぶ力の育成—みそ汁づくりを題材にして—. 島根大学教育学部紀要, 49, 17 - 25.
- 26) 藤井志保・中山英充子・伊藤圭子・高橋均. (2017). 中学校家庭科における「幼児とのふれあい体験学習」： アクティブラーニングによる授業モデルの開発と実践.
- 27) 竹嶋啓子 (2017). 家庭科指導法 I におけるアクティブラーニングの実践報告. 武庫川女子大学 学校教育センター年報, 2, 125 - 134.
- 28) 佐々木信子・小松国子・小栗美香子・瀬尾知子・菊池教子. (2016). 家庭科教育におけるアクティブラーニングの学びの過程—KHCoderによる授業分析—. 秋田大学教育文化部教育実践研究紀要, 38, 51 - 57.
- 29) 伊深祥子 (2017). 家庭科教員養成におけるアクティブラーニング. 日本家庭科教育学会第60会大会, 要旨.
- 30) 注1) 前掲書参照.
- 31) 五藤・横山・夫馬 (2017)「家庭科におけるユニバーサルデザインの教材開発-副読本の作成と授業実践における活用」に授業記録を収録.
- 32) 奥村・夫馬 (2018)「高齢者の介護を支援する衣服教材の開発」に実践記録を収録.
- 33) 村井・横山・夫馬 (2019)「ユニバーサルファッションの教材開発としての補助教材冊子」に授業記録を収録.
- 34) 1：五藤・横山・夫馬 (2017)「家庭科におけるユニバーサルデザインの教材開発-副読本の作成と授業実践における活用」に授業記録を収録。2：奥村・夫馬 (2018)「高齢者の介護を支援する衣服教材の開発」に実践記録を収録。3：村井・横山・夫馬 (2019)「ユニバーサルファッションの教材開発としての補助教材冊子」に授業記録を収録実践を参照.
- 35) 大学生は卒業研究の一環として、高齢者施設における衣生活調査及び衣服改良についての意見交流を行い、実際に衣服改良に取り組む。この過程を教材化して中学校におけるユニバーサルデザインの授業実践に取り組む。また中学生は授業の中で高齢者衣服の提案を行い、その提案を大学生が具体化して実作するなど、相互に学びあう構想で取り組んだ.